

春日若宮おん祭のご案内

春日若宮おん祭（かすがわかみやおんまつり）は、奈良市の春日大社の摂社若宮で行われる祭礼です。「春日若宮おん祭の神事芸能」は重要無形民俗文化財に指定されています。社伝神楽や東遊、田楽や細男、三方楽所南都方の伝統を受け継ぐ「南都楽所」による舞楽が行われ、猿楽（能）や雅楽、神楽や舞楽などの継承・保存にとって大きな意味を持っています。

また、若宮神のお旅所への神幸・還幸は「身も毛もよだつ」（二条良基『さかき葉の日記』）と形容した中世人の神への畏敬を、今日の我々にも感じさせてくれます。

保延元年（1135年）旧暦二月二十七日、現在地に大宮（本社）と同じ規模の壮麗な神殿を造営しました。若宮の御神助を願い、翌年（1136年）旧暦九月十七日、春日野に御神霊をお迎えして丁重なる祭礼を奉仕したのが、おん祭の始まりです。大和一国を挙げて盛大に執り行われ、現在まで「八百七十有余年」にわたり途切れることなく開催されています。

若宮をお迎えする「遷幸の儀」から若宮をお還しする「還幸の儀」までの祭祀は、24時間で執り行われます。12月17日午前零時から始まり、12月18日の午前零時になる前に御帰りになる。この間「遷幸の儀」「還幸の儀」ともに一切の照明および写真・ビデオの撮影は禁止されています。

ご神霊が多くの供奉（くぶ）を従えてお旅所の行宮（あんぐう）へ遷られることを、一般に「お渡し」と言いますが、おん祭の場合はご神霊の行列ではなく、既に行宮へ遷られた若宮神のもとへ、芸能集団や祭礼に加わる人々が社参する行列のことを言います。

お渡し式は、12月17日の正午より行われます。この様子は、意匠を凝らした華やかな風流の行列として、おん祭の大きな魅力の一つとなっています。明治以降加わった先行の行列と古式を伝える伝統の行列が奈良県庁前に集合し、登大路を西に下り、近鉄奈良駅より油阪を経てJR奈良駅前からまっすぐ東へ三条通りを登り、一の鳥居を入れてすぐ南側の「影向の松（ようごうのみつ）」の前で「松の下式」を行ってお旅所へ練り込みます。



中心は平安時代から江戸時代に至る風俗を満載した伝統行列の部分です。創始の際には「楽人・日使・巫女・伝供御供・一物・細男・猿楽・競馬・流鏝馬・田楽」とその骨格を整えており、旧儀が長く守られながら、時代の流れに応じた姿を見せるのがこのお渡りです。

また、大名行列は道中、奴振りの妙技を披露します。往古は、奈良市中の旧村落の地元住民らにより奉仕されていました。現在は、一般公募で結成された春日若宮おんまつり保存会有志によって守られています。

お渡り式の順序は次の通りです。

- 第一番 日使(ひのつかい)
- 第二番 神子(みこ)
- 第三番 細男・相撲(せいのお・すもう)
- 第四番 猿楽(さるがく)
- 第五番 田楽(でんがく)
- 第六番 馬長児(ばちょうのちご)
- 第七番 競馬(けいば)
- 第八番 流鏝馬(やぶさめ)
- 第九番 将馬(いさせうま)
- 第十番 野太刀(のだち)他
- 第十一番 大和士(やまとぎむらい)
- 第十二番 大名行列(だいみょうぎょうれつ)

行列の最後尾は、「南都奉行所」の与力・同心がしんがりを務めます。

(親鴨会関西支部会員の「天羽將恵」さんが、侍姿でこの行列に参加致します)

12月17日の中心神事スケジュール

- 午前0時 遷幸の儀 (せんこうのぎ)
若宮本殿よりお旅所へ (若宮様をお旅所へお遷し申しあげる神秘の行事)
- 午前1時 暁祭(あかつきさい)
春日野お旅所へお遷りの若宮様に朝の御饌をお供えし神楽を奉納する
- 午前9時 本殿祭(ほんでんさい)
春日大社本社若宮で若宮おん祭の無事齋行を祈る祭典
- 午後0時 **お渡式(おわたりしき) 奈良県庁前広場出発**
- 午後1時頃 **一ノ鳥居内影向で 松の下式(まつのしたしき)**
- 午後2時頃 **一ノ鳥居内馬出橋よりお流所勝負榭まで 競馬(けいば)**
一ノ鳥居より馬出橋辺まで 稚児流鏝馬(ちごやぶさめ)
- 2時30分頃 お旅所で お旅所祭(おたびしょさい)
- 午後11時 還幸の儀(かんこうのぎ)
お旅行より若宮へ若宮様に御殿へお帰りいただく神秘の行事

以上